

論文審査の要旨  
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博 士 ( 教育学 )	氏名 Author	JUNITA WIDIATI ARFANI
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論文題目 Title of Dissertation International Education (IE) at High School Level in Indonesia: Globalization, Nationalization and Individualization			
論文審査担当者 Dissertation Committee Member 主 査 Committee Chair 広島大学大学院国際協力研究科 准教授 中矢 礼美 印 審査委員 Committee 広島大学大学院国際協力研究科 教授 馬場 卓也 審査委員 Committee 広島大学大学院国際協力研究科 准教授 牧 貴愛 審査委員 Committee 立命館大学国際教育推進機構 教授 堀江 未来 審査委員 Committee 名古屋大学 名誉教授 西野 節男			
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review 本論文は、世界的に広がりつつある国際教育プログラムに焦点をあて、インドネシアにおける教育のグローバル化、ナショナル化、個人化の特徴と課題について、日本を参照軸としながら論じたものである。 第1章においては、問題の所在、研究の目的を述べ、第2章では国際教育プログラムの先行研究の整理と課題を提示し、本論の分析枠組みであるグローバル化、ナショナル化、個人化の説明を行い、個人化として生徒と保護者による国際教育プログラムの意味を探る必要性を述べている。第3章は、調査方法の説明として、インドネシアと日本において国際教育プログラムを実施する高等学校の生徒と保護者へのインタビューと授業観察を実施し、分析した方法が説明されている。第4章では、インドネシアの人格形成教育政策と教育の国際化政策について歴史的、社会的、教育学的な分析を行い、教育の国際水準化を目指しつつも愛国主義的で宗教色の強い教育政策の特徴を描いている。第5章では、インドネシアの国際教育プログラムを受ける生徒と保護者にとって、その教育経験は海外の大学進学への可能性を高め、批判的思考力を向上させるなどの有益さとともに、国家試験準備の負担を感じていること、インドネシア語能力の低さから国内での自己効力感が低いこと、国家への誇りは強いものの国家・地域への貢献意識は低く、グローバル市民としての意識は高くなる傾向があることを示した。第6章では以上のまとめと課題を提示した。以上のとおり、本論文は、個々人の教育経験と意味づけの理解から、教育の国際化政策について国家に再考を促すものであり、一定の貢献の可能性があると評価され、審査委員一同の合意の下に合格とされた。 また、査読付き論文2本 (Arfani, J.W. (2019). International education beyond state regulations in Indonesia: Practices from Y Province-Based public and private schools. Policy and Governance Review, Vol 3 (3) pp. 258-271. Arfani, J. W., & Nakaya, A. (2019). Meanings of international high school education in Indonesia and Japan. Journal of Research in International Education, Vol. 18(3), pp. 310-325.) は刊行され、あと1本も3月に刊行予定であり、学位論文提出要件は満たしていることも確認した。			